

## 芸術科（美術Ⅰ）研究協議会

日 時 令和元年10月10日（木）6校時  
参加者 浦 伸之 伊藤 直哉  
場 所 秋田中央高等学校 美術室  
記録者 浦 伸之

○絵を描かせるだけでなく、話し合いや確認を通して学び合う課題解決学習になっていた。（牛丸 僚子 先生）

○考えを生徒が発表する場面があれば良かったのではないか。（鎌田 亨 先生）  
（ポスター制作や発表について考えさせる授業であったため、この授業で考えていることを取り入れたしっかりした発表を行うのは難しいと考え、協議だけで終え、発表の場はもうけませんでした。（伊藤 直哉））

○普段から話を聞く態度のできている生徒は、伝達もされていると感じた。  
○理解力のある生徒の絵がより正確に描けていることにも頷かされた。  
○文章でも、映像としてイメージできるものは印象に残りやすい。気がついていない生徒もおり、文章全体を一場面として記憶していた。

単なる説明文では印象に残りにくい。国語でも文章と場面の結びつきを考える学習を取り入れています。

○黒板上の記述で目を引きたい箇所に黄緑色の丸印を貼り付けましたが、効果的だと思いました。

○二枚重ねの黒板の上下移動を使い、表示・非表示を一瞬で切り替える利用方法は応用できると思います。

（以上： 三浦 玲 先生）

○右脳と左脳の結びつきを使う、刺激的な授業だと思います。

○題材が、SSH等の発表学習などに結びつけられており、芸術の授業だけになっていない。（浦 伸之 先生）

○言葉による伝達の課題は、基本的な図形から始めればもっと伝え方が上手になるだろう。（浦 伸之 先生）

（次年度は2時間として基本から繰り返し取り組める計画を考えてみます。（伊藤））

○言葉による伝達の課題で、  
まず始めに、全体の構図を伝えていない。そのため、後々間違いが増え、繰り返し伝達する手間も増えている。どの班も、最初に全体を見通した確認が出来ていなかった。（浦 伸之 先生）

（まさにご指摘どおりの状況が見られた。国語で言えば「あらすじ」とも言える説明ができる生徒がいなかった。今後はまとめる力、段取りというものを考えられる授業を計画したい。（伊藤））